

1 学校教育目標

かしこく やさしく たくましく

2 目指す児童生徒像

○自分のよさに気づき、そのよさを豊かに表現できる児童生徒…自分を大切にする(自利)

○相手を思いやる心もち、友だちと力を合わせる児童生徒…相手を大切にする(利他)

○生まれてきたことを喜び、家族・地域に感謝・貢献する児童生徒

…家族・地域を大切にする(貢献)

3 育成をめざす資質・能力(具体の姿)

	知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性等
	知識, 技能	思考力・判断力・表現力	主体性
後期	・学んだ知識や技能を活用して課題解決することができる。	・未知の状況にも対応できるよう, 尋ねたり, 調べたりすることで, ものの見方や考え方を広げ深めることができる。	・自分から進んでよりよい自分のやり方を選び, 試行錯誤しながら課題解決しようとしている。
中期	・学んだ知識や技能を活用することができる。	・尋ねたり, 調べたりして, 問題解決に必要な情報を見付け, 選び出すことができる。	・自分から進んでよりよい自分のやり方を見付け, 課題解決しようとしている。
前期	・学んだ知識や技能を身に付けることができる。	・尋ねたり, 調べたりして, 関係がありそうなものを見付けることができる。	・自分から進んで自分のやり方を見付け, 課題解決しようとしている。

4 研究主題等

(1) 研究主題

互いに高め合いながら, 自ら考え表現する児童生徒の育成
～「伝え合い」と「振り返り」の充実を通して～

(2) 設定理由

昨年度, 吉浦中学校区では, 研究主題を「互いに認め合いながら, 自ら考え表現する児童生徒の育成～「チャレンジ」「伝え合い」「振り返り」のある授業づくり～」と設定し, 安心安全な心の居場所をベースとして, 「個別最適な学び」, 「協働的な学び」, 「自己調整の場」のある授業づくりを通して, 自ら考え表現することができる児童生徒の育成を目指した。

令和7年度の成果と課題は, 以下のような結果として表れた。

【視点1・2】児童生徒アンケートにおける肯定的回答80%以上

	小学校		中学校	
	1学期	2学期	1学期	2学期
視点1 学校生活では友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる。	96.8%	97.6%	99.1%	100%
視点2 授業では自分の考えが上手く伝わるよう、資料や文章、話の組み立てを工夫して発表している。	90.0%	90.0%	96.3%	95.8%

【視点3】学力調査での通過率 全国平均以上

○小学校の標準学力調査

	1年		2年		3年		4年		5年		6年	
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
本校の平均	80.6	83.9	85.4	82.3	78.3	67.5	74.1	71.1	70.6	60.3	72.5	77.0
全国平均	74.6	78.6	79.3	71.3	76.7	72.7	70.4	65.7	69.1	62.0	70.8	73.1

○小学校の全国学力・学習状況調査の通過率 (%)

	国語	算数
本校の平均	73.0	62.0
全国平均	66.8	58.0

○中学校の標準学力調査（1・2年）及び全国学力・学習状況調査（3年）の通過率 (%)

	1年			2年			3年	
	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学
本校の平均	46.5	35.6	32.9	54.5	39.5	46.2	54	48
全国平均	53.9	46.4	50.9	59.8	50.8	54.4	54.3	48.3

【視点1】において、小中ともに、高い肯定的回答を得られている。これらは学校や学級での授業が、安心安全な心の居場所として機能していることを示していると考えられる。【視点2】においても児童生徒は相手意識をもって表現しようとしていることが伺える。【視点3】では小学校では概ね学力調査における数値目標を達成できたが中学校ではまだ数値としてその成果が表れていない。その要因として、授業での伝え合いが、真に高め合うものになっていないことが挙げられる。授業研究においても、小中共に相手を認め合う様子は多く見られたが、めあてに迫るための伝え合いの深まりはあまり見られなかった。

以上のことから、学習集団として心の居場所づくりは一定の成果が表れているが、学力につなげていくには指導者が目指す授業像を明確にもち、具体的な指導を実践することが必要であると考えられる。その上で、「子供たちにどのような力が付いたか」という学習の成果を的確にとらえ、授業改善を図ることが肝要である。

そのため、今年度は「伝え合い」について確かな理論と実践を重ね、児童生徒の学力向上につなげていく。その成果と課題を「振り返り」で見取り、次の指導に生かしていく。これまで実践してきた「チャレンジ」については、主に個の学力に応じた手立てとしての位置付けとする。

(3) 研究仮説

授業において「伝え合い」と「振り返り」を充実させれば、児童生徒は互いに高め合いながら、自ら考え表現することができるであろう。

(4) 研究内容

【授業スタイル】

「めあて」：単元の目標につながる児童生徒主体のゴール設定をする。

「チャレンジ」：個別最適な学習方法を設定し自ら学ぶ場を保障する。

「伝え合い」：自分の考えを互いに共有することで思考を深め、表現する力を育む。

指導者からの形成的評価や友達との伝え合いを受け、考えを付加・修正することで「めあて」を達成する。

「振り返り」：評価の3観点（学習のまとめ・自分の思考・学習のメタ認知）

に沿って、自己の学びを認知する。

【授業研究の視点】

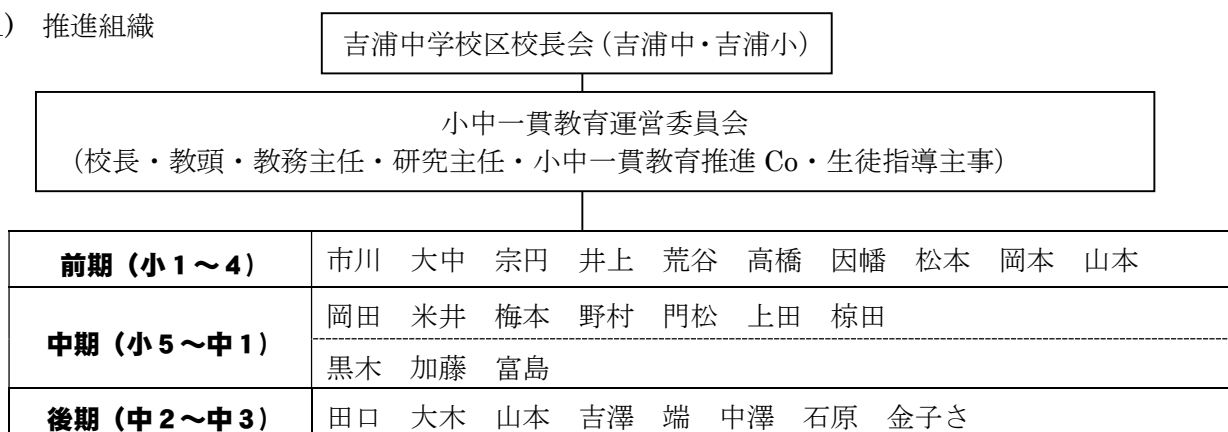
- 「伝え合い」の充実…問答しあう学習集団作り・方法の工夫・考えを深める主発問
- 「振り返り」の充実…書き方の指導・時間の保証・次につながる共有の場
- 互いに高め合い、自ら考え表現する児童生徒の姿…授業前後の児童生徒の変容の見取り

(5) 検証について

検証の視点	方法	検証の指標	達成目標
【視点1】 「伝え合い」に関わる項目で肯定的回答が高まったか。	児童生徒アンケート 5月と12月	児童生徒の肯定的回答	肯定的回答80%以上
【視点2】「振り返り」に関わる項目で肯定的回答が高まったか。	児童生徒アンケート 5月と12月	児童生徒の肯定的回答	肯定的回答80%以上
【視点3】児童生徒の学力が向上したか。	標準学力調査 ・小学校：12月 【国語・算数】 ・中学校：6月と1月 (3年は11月) 【国語・数学・英語】	全国平均との差あるいは前回実施調査との差	・小学校 全国平均以上 ・中学校 全国平均以上の教科・学年の増加

5 推進体制

(1) 推進組織



(2) 一部教科担任制実施計画

ア 乗り入れ授業等（中→小）

○ 中学校教員による乗り入れ授業

・ 吉浦小学校第6学年 算数科または外国語科（1時間 2学期または3学期実施）

6 推進計画

月 日	実施内容	備考
4月 2日	小中一貫運営委員会【吉浦中学校】	
4月20日	○第1回全体会【吉浦中学校】 (年間計画・研究推進の確認)	
4月 日	○全国学力・学習状況調査 質問紙調査 (中学校)	
4月 日	○全国学力・学習状況調査 質問紙調査 (小学校)	
5月	○QU実施 (中学校・1回目) ○児童生徒への意識調査アンケートの実施及び分析	
6月	○広島県 児童生徒学習意識等調査	
7月	小中一貫運営委員会【吉浦中学校】	
8月	○第2回全体会【吉浦中学校】	指導主事
10月	○QU実施 (中学校・2回目) ○さつまいも収穫交流会 (小1・中2) ○第3回全体会【吉浦中学校】 授業研究 中学校 教科 数学：端教諭	指導主事
11月	○第4回全体会【吉浦小学校】 授業研究 小学校 教科 国語：高橋教諭	指導主事
12月	○研究のまとめ開始 ○児童生徒への意識調査アンケートの実施及び分析	
1月	小中一貫運営委員会【吉浦中学校】 (研究のまとめ・成果と課題の整理) 【吉浦中入学説明会】	
3月	○令和9年度研究推進計画立案	

7 その他

・ 小中一貫教育だよりを年に2回、発行する。